

エコアクション 21

【環境経営レポート No15】

2023年(令和5年)度版

～対象期間～

2023年(令和5年)6月1日(木)～2024年(令和6年)5月31日(金)



[レポート発行日 令和6年10月17日]



たむら建設 株式会社

【目 次】

(1) 会社概要

(2) 環境経営方針

(3) 実施体制

(4) 売上高推移・環境負荷実績

(5) 運用結果・評価

(6) 中期5ヵ年環境経営目標

(7) 環境経営活動計画

(8) 環境経営活動計画の取組結果とその評価・次年度の取組内容

(9) 環境関連法規等取りまとめ表

(10) 代表者による全体の評価と見直し・指示



SDGsとは？

Sustainable(持続可能な)・**D**evelopment(開発)・**G**oals(目標:到達点)

2015年9月の国連サミットで決めた世界中の人が幸せに暮らせるため経済・社会・環境の3つのバランスが取れた社会を作ろうというもの

「誰一人取り残さない」を理念に人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年迄に達成するという目標になっていて「17のゴール(目標)」とそれぞれの下に具体的な「169のターゲット(達成基準)」があります

SDGsはあるべき姿(ゴール)～エコアクション21はそこに向かうための手段(道具)

どうやってそこ迄辿り着くのか～環境経営(方針・目標・計画)を立案、実行して参ります



【会社概要】

【1】事業者名及び代表者名

たむら建設株式会社 代表取締役 田村安孝

【2】本社所在地

静岡県榛原郡吉田町住吉1964-1

電話 0548-32-3107 FAX 0548-32-3109

eメール: kurebayashi@tamurakensetsu.jp (EA事務局用)

資材倉庫 静岡県榛原郡吉田町片岡1497-1

【3】環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者: 田村 安孝 担当者: 紅林 正人

【4】事業内容

- ・特定建設業: 静岡県知事許可(特-4)第13627号
土木、とび・土工、石、鋼構造物、舗装、しゅんせつ、塗装、水道施設
- ・一般建設業: 静岡県知事許可(般-4)第13627号
管工事業
- ・排水設備工事: 吉田町 指定第5号 排水設備指定工事店

組織は、全組織・全活動(事業活動及び環境配慮への取組)
を対象としてエコアクション21に取組み、環境経営システムを
構築、運用、維持し認証・登録します。

【5】事業規模

資本金	20,000千円
設立	昭和54年10月
事業年度	期首6月 期末5月
従業員数	10名

【6】その他

自社排出物運搬の為、廃棄物収集運搬業の許可も取得
静岡県知事 第02201081714号

許可の年月日 令和3年12月21日

許可の有効年月日 令和8年12月20日

事業の区分 収集運搬(積替え及び保管行為を除く)

産業廃棄物の種類

廃プラスチック類(石綿含有廃棄物を除く。)、金属くず、
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有廃棄物を除く。)、
がれき類(石綿含有廃棄物を除く。)、紙くず、木くず 以上 6品目

【7】対象範囲

対象組織: たむら建設(株)本社、資材倉庫

対象活動: 建設業(土木、とび・土工、石、鋼構造物、舗装、
しゅんせつ、水道施設、管工事業)、排水設備工事

【環境経営方針】

【基本理念】

平成～令和と時代が目まぐるしく変わる中、たむら建設(株)は、道路工事、河川工事、公共下水道工事、水道工事等の社会インフラとしての土木工作物の提供を通じ地域社会に貢献する土木工事業を生業とし、事業の永続～発展に日々汗をかき精進努力を続けて半世紀以上が経過しました。

公共工事の減少に伴い短・中長期受注予測が非常に困難な現在、安定した売り上げ～受注をどうしたら続けられるのか、同時に直面している世代交代が難しい現状～従業員、職人の高齢化や人手不足による雇用問題～どれも待ったなしです。業界で改善が求められる長時間労働、休日取得の問題や災害時の事業継続等ネガティブ・リストを挙げれば限りありません。

その様な中、我々は問題の原因を自分達の外側に探し、自分達の立ち位置を変える事無く、頭の中で外部環境を状況の言い訳にする責任転嫁を大変上手に行う傾向にある事を反省しなくてはなりません。

その様な現状に於いて、国連が掲げた「持続可能な開発目標＝SDGs」は環境にマネジメントシステムを構築する事が企業の体質を強化し企業価値の向上に貢献するものとしています。「環境経営」を通して地球環境に貢献し会社も鍛えられていく～SDGsがゴールでエコアクション21はそれに向かうための手段と捉え、SDGsを意識した環境経営(方針/目標/計画)を実行して行けば将来そこに辿り着くと考えています。

EA21に取り組み始めてから久しくなりますが当初は資源やエネルギーの各項目の数字を減らす事ばかりに頭が働いていた我々も、今の環境優先時代その思考範囲を環境経営を通してより進化した組織へと成長する事が求められています、自ずと各項目の数字だけの観点から自社の持つ様々な経営資源を改めて見直し底上げする視線から考える事を求められている。つまり、消極的な守りの節約経営的な思考から脱皮し攻めの積極的環境経営をする事により社業発展に繋がっていく流れ～環境経営の言わんとする所の意味を広く捕え、その仕組みを全体の方向性として革新し継続して改善～進化していかなければならないと感じています。

我々の皮膚感覚として、経営の山積する問題の直接的解決方法に安易に繋がるとは思えない環境経営の主旨をどのように取り組んで社業発展に結び付けるのか～EA21に、どう取り組めば本当に生産性を向上させられるのか、増収増益に結び付くのか～色々暗中模索する中、プラス思考で、逆にここにチャンスがあるのではないかと！我々の頭が固く新たな気づきや忘れていた事があるのではないかと等EA21への取り組みを通して自分達の頭で考え工夫し前向きに挑戦していく～まさにその事の積み重ねが会社にとっても最大の宝と捕らえています。

時代から求められている環境経営をすれば余分な経費が掛かり、その分足枷になるのではないかと？公共工事の入札に有利だからEA21を始めた訳だし、平々凡々に終われば良い～新しい工夫も思考もない過去の続きは終わりにしなくてはならない。

「たむら建設さん！」～ああ～あの環境に配慮する工事で発展している「あの、たむらさん～ね」となるくらいに～。

Sustainable(持続可能な)、Development(開発)、GoalS(目標:到達点)

2015年9月の国連サミットで決めた世界中の人が幸せに暮らせるため経済・社会・環境の3つのバランスが取れた社会をつくらうというもので17のゴール(目標)と169のターゲット(達成基準)があります。

我々の様な田舎の小さな土木工事会社も自分達地域の当事者の事として、次から次へと目まぐるしく変化する前途多難な、ご時世ではありますが、前向きに色々な方法を検討し、我々の祖先が残してくれたこの大切な地球環境を我々の子供～孫、その先々までより良い安定した状態で残し、皆が笑顔で暮らしていけるようにEA21に取り組み～理想的な持続可能な社会の実現に貢献したいと考えて弊社の基本方針を定めます。

【基本方針】

【1丁目1番地】環境経営システムの構築、運用、維持にあたり適用される環境関連の法令、条例を遵守し
従業員に環境経営方針を周知すると同時に環境活動に対する知識を深め向上に努めます

【1丁目2番地】事業活動における環境への負荷を低減(二酸化炭素排出量の削減)する為に下記の
取り組みに重点を置きます

①環境配慮への取り組み(現場管理)を強化します

- ・手待ち(前工程の未完了や指示の遅れ等)・手戻り/手直し(設計図書の不備や指示間違い等)の解消をする・工事途中の設計変更や追加工事、煩雑な検査や承認のやりとりフローによるロス無くす
- ・用地収用の遅れや地中障害等による着手の遅延を無くす
- ・作業中の事故や品質問題(出来形管理・製品の材料検収等)に起因する工事の中断を無くす
- ・環境配慮型重機(低燃費・低騒音・低排出ガス型)の使用現場件数の最大化を目指す
- ・予定工期の短縮に尽力する(＝生産性の向上を目指す)
- ・発注元へ環境配慮事項の提案をする
- ・現場に於ける生物多様性を現場でどのように取り組んで行ったら環境保護に繋がるのか勉強をし実施出来るように頑張る
- ・ボランティア活動を通じて地域社会に環境で貢献する(アダプトロードプログラム等継続中)
- ・5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に取り組み、社内外の美化、無駄の排除に努める

②グリーン購入を促進します

- ・事務用品の選択をする
- ・間伐材マーク製品の利用を増やし再生骨材・型枠・仮設材・埋設管やコンクリート二次製品の再利用の促進をする～3R(リデュース/リユース/リサイクル)の促進をする
- ・使用後の機械類・道具や備品類の油差し等の日常点検～整備を行い、使用時には大切に使いそれらが末永く使用可能な状態をキープする
- ・倉庫内の整理整頓に努め使用する時に時間的なロス無くす

③ガソリン・軽油使用量及び水使用量の削減をします～工程の見直しや節水活動をします

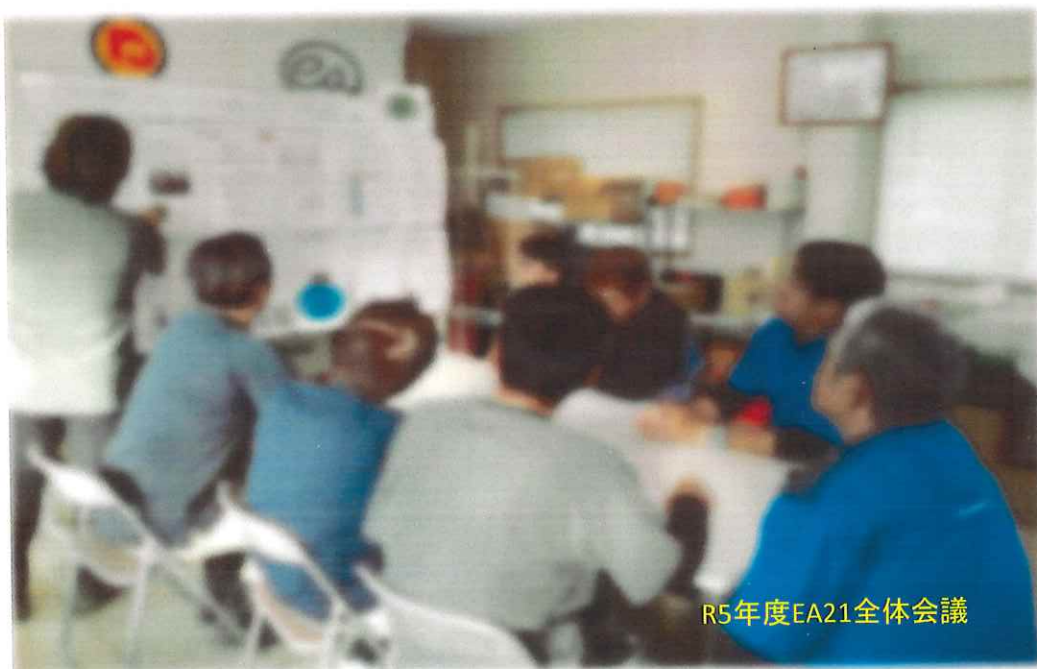
【1丁目3番地】環境配慮への取り組みとして、生産性の向上を目指し建設ICTの導入を推進して参ります
生産性向上の取り組みとして、発注者側の監理者、元請側の技術者を始め関係する職種に省人化効果をもたらすコスト削減、品質向上に寄与し、3K的な建設業界をITを駆使した最先端技術の魅力的なものに変え新規雇用、新規入職者の確保に繋がる取り組みへと推進します

【1丁目4番地】生産性の向上(＝環境配慮への取り組み)として建設キャリアアップシステムの登録と促進を試みます

従業員、新規雇用者は働くモチベーションを上げる事で、業務の効率化(＝生産効率の向上)を計る事が出来ると考えます。モチベーションアップには賃金水準の確保、社会保険加入の徹底、建退協(中退共)制度の適用休日の拡大等が積極的な課題です。建設キャリアアップシステムを推進する事で技能に見合った処遇の確保と資質の向上を図りたいと考えております

【1丁目5番地】環境上の事故及び緊急事態を想定し、緊急事態対応訓練を実施し環境に関する危機管理能力の向上を図ります

【1丁目6番地】環境への取組みについて、PDCAサイクルに基づいた環境経営システムに取組み、環境活動の結果を評価し生産性の向上を計り継続的な改善を図ります



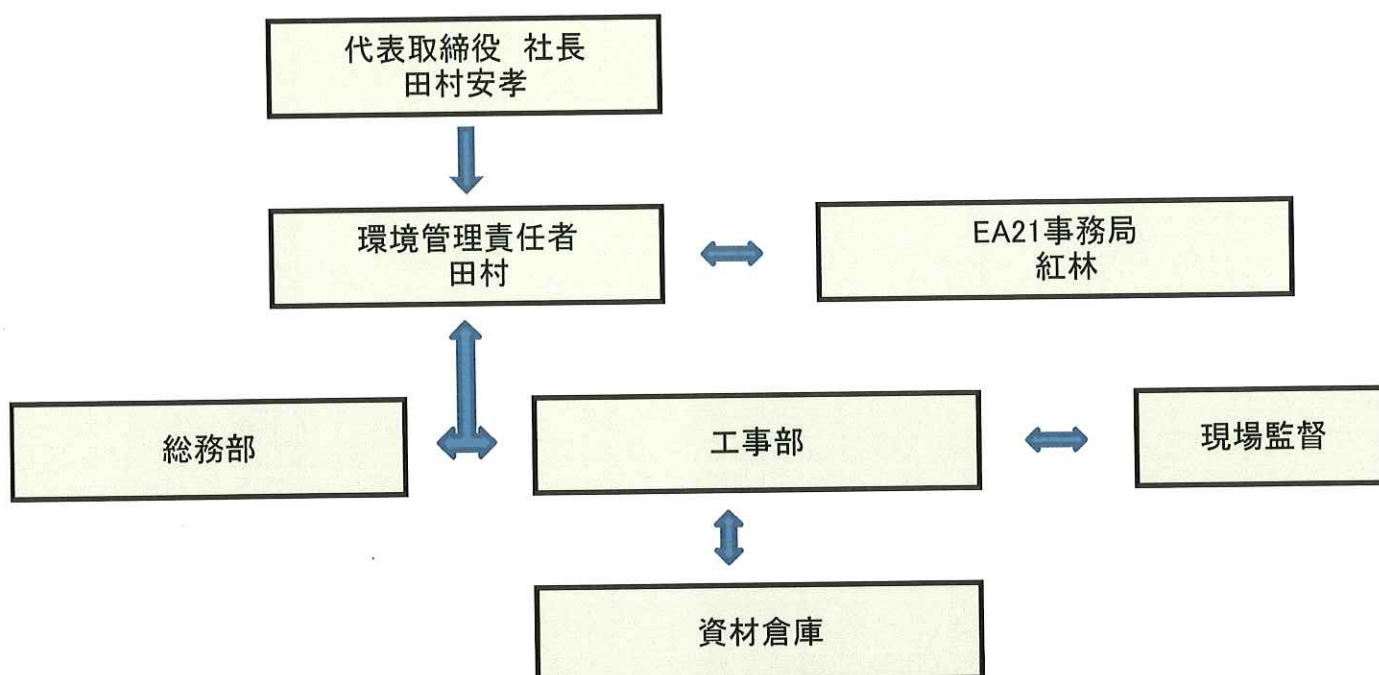
2023年度は環境経営方針の変更はありません



制定：平成22年10月1日
改定：平成29年7月7日(第3版)
改定：令和元年9月1日(第4版)

たむら建設株式会社
代表取締役 田村安孝

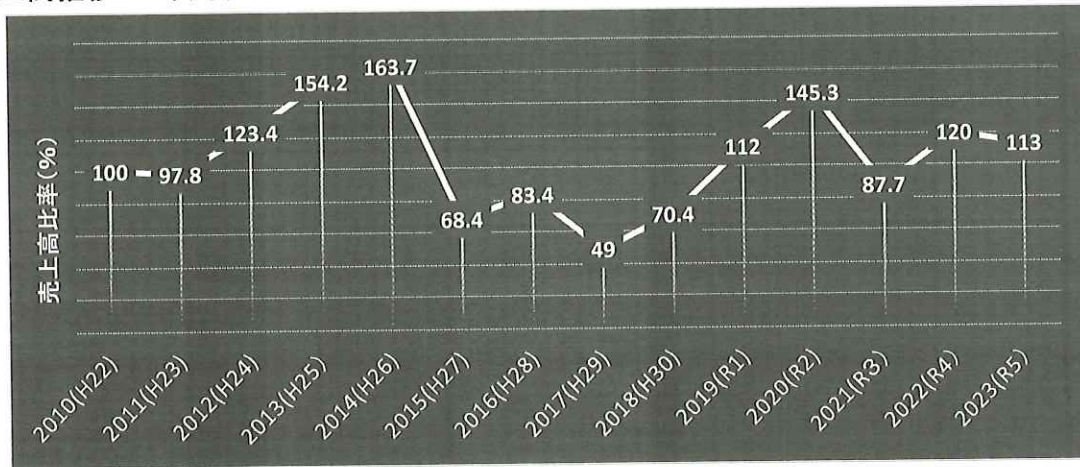
【実施体制】



役割	責任及び権限
代表取締役社長	環境経営方針を定め誓約する 環境管理責任者を指名する 環境経営資源の確保 経営における課題とチャンスの明確化 効果的で十分な実施体制の構築、全従業員に周知 全体の取組状況を評価し全般的な見直しを実施し必要な指示を行う
環境管理責任者	環境経営システムの立案、実施、管理、エコアクション21の活動全般の運用 環境関連法規、条例等を整理し遵守状況を確認 環境経営目標、計画の確認 環境経営活動の取組結果の検証、社長へ報告 環境経営レポートの最終確認
EA21事務局	環境目標及び環境活動計画を策定する 環境活動レポートを作成し公表する 環境上の緊急事態を想定し、定期的な訓練を実施する 環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況を、定期的に確認、評価する 環境関連法規、条例等を整理し遵守状況を定期的に確認する 問題がある場合は、是正措置を行い必要に応じて予防処置を実施する 必要な文書を作成し整理する 環境方針及び役割を全ての従業員に周知する 外部からの環境に関する苦情や要望を受け付け必要な処置、対応を行う 必要な記録を整理する 必要な取組を実施する
全従業員	EA21活動を実践し活動を通じてEA21事務局、環境管理責任者へ提案し良い方向へ改善していく

【売上高推移(取組始めてから14年間)・環境負荷実績(過去5年間)】

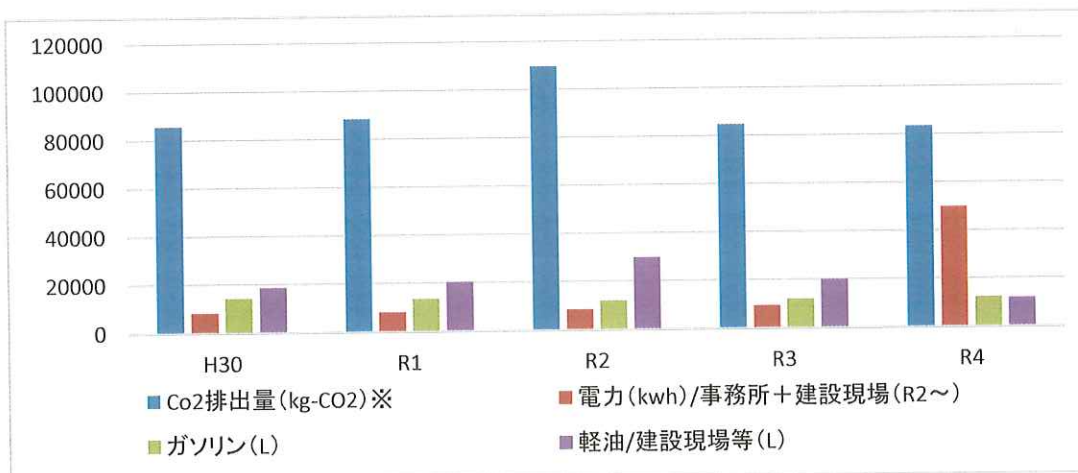
売上高推移・14年間〔2010(H22)～2023(R5)〕 ※2010(H22)年度の売上高を100%とした比率



※事務所床面積(144.56㎡) 資材置場敷地面積(3300㎡) 従業員数(10人/令和5年度)

直近過去5年間の環境負荷実績(主要項目)

項目		2018	2019	2020	2021	2022
		H30	R1	R2	R3	R4
Co2排出量	Co2排出量(kg-CO2)※	85789	88433	109528	84729	83515
	電力(kwh)/事務所+建設現場(R2～)	8216	8091	8486	9400	49807
	灯油/建設現場等(L)	20	77	62	121	102
	LPG(kg)/事務所	2.9	2.7	3.4	2.7	1.5
	ガソリン(L)	14422	13587	12152	12085	12419
	軽油/建設現場等(L)	18690	20489	29898	20119	11912
廃棄物	産業廃棄物(再資源化量%)	99.66	96.4	100	99.5	96.7
水(上水 m³)		43	36	35	39	35
グリーン調達率(%)		72.15	62.7	65.8	57.7	55.2



※二酸化炭素排出量

H28年度・H29年度→H27年度の0.486kg-CO2/Kwh(中部電力)

H30年度・令和1～5年度→H29年度の0.476kg-CO2/Kwh(中部電力)

※電力(kwh)/事務所

2020(R2)から建設現場等の購入電力も合算しています

【2023年度(令和5年度)の運用結果・評価】

環境負荷と目標達成状況(主項目)

項目		基準年数値	目標値(−2%)	実績値	評価
		H22～R1 (10年間平均) 上段:実数値 下段:原単位	令和5年度 上段:実数値 下段:原単位※		結果
Co2排出量	Co2排出量(kg-CO2)※	90447 886.7	88638 869	139127 1231	×× ××
	電力(kwh)※(1)	10615 104	10403 102	99857 884	×× ××
	ガソリン(L)	16968 166.4	16629 163	11290 100	○ ○
	軽油/建設現場等(L)	17492 171.5	17142 168	25308 224	×× ××
	灯油/建設現場等(L)※(2)		配慮する	42	○
	LPガス(kg)※(2)			2.07	○
廃棄物	産業廃棄物(再資源化率%)	90	95	100	○
水(上水 m³)	※(2)		配慮する	55	○
グリーン調達率(%)				39.4	×

項目	単位	毎年度目標(%)	令和5年度 実数値	目標割合 %	評価	SDGs
環境関連の法令・条例の遵守	現場件数	全物件 100%目標	9件	100%	◎	
手待ち・手戻り・手直し工事をなくす			9件	100%	◎	
工事途中の設計変更・追加工事 煩雑な検査や承認のやり取りの フローロスを無くす			6件	67%	▲	
用地収用の遅れ地中障害等による 着手の遅延ロスを無くす			5件	56%	▲	
作業中の品質問題 (出来形管理・材料検収) に起因する中断を無くす			9件	100%	◎	
環境配慮型重機 (低/燃費・騒音・排気ガス) 使用件数の最大化			9件	100%	◎	
予定工期短縮(生産性向上)に尽力する		元請工事を 対象とする	2件	22%	×	
発注元へ環境配慮事項の提案(ICT提案・他)			7件	78%	○	
現場における生物多様性への取組 及び勉強(環境保護)			5件	56%	▲	
地域貢献活動(自主的/ボランティア) をする(アダプトロード奉仕活動 ・現場道路散水等)		全物件 100%目標	7件	78%	○	
間伐材マーク製品の利用を増やす			9件	100%	◎	
再生骨材・型枠・仮設材・埋設管 コンクリート二次製品の再利用を増やす			9件	100%	◎	
6S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) 社内外美化・無駄の排除をする	回	配慮する		70%	○	
使用後の機械類・道具や備品類の 日常点検・整備を行う				80%	○	
倉庫内の整理整頓をする				70%	○	
グリーン購入率を上げる(事務用品)				余り配慮 出来な かった	▲	
建設ICTの導入 工事件数・提案件数を増やす	件		件	余り配慮 出来な かった	▲	

【運用結果・評価/補足事項】

※二酸化炭素排出量

H22年度～H27年度→H21年度の0.474kg-CO₂/Kwh(中部電力)
H28年度・H29年度→H27年度の0.486kg-CO₂/Kwh(中部電力)
H30年度～令和5年度→H29年度の0.476kg-CO₂/Kwh(中部電力)
を基に算出しています

※原単位算出方法

(基準年数値)の原単位の計算方法=実数値(10年間平均)÷売上高比(=102)

・売上高比(=102):H22年度の売上高を基準売上高とし(100%)

H22～R1迄の10年間の各年度の売上高を比率化した平均値

(令和5年度実績値)の原単位=実数値÷令和5年度の売上高比(=113)

・令和5年度の売上高比(=113):H22年度の基準売上高100%に対してR5年度の売上高の比率

※(1) 電力(kwh)基準年数値(10年間平均):本社事務所使用量のみを記載
令和5年度:本社事務所+資材置場+建設現場等の購入電力を記載

※(2) 建設現場等の灯油、事務所のLPガス、上水(水使用量)及びグリーン調達率は
環境負荷が少なく改善が定着した為、環境目標や環境活動計画は作成せず
実績を把握し維持管理を行っています

■平成24年度より期首6月～期末5月とする(平成21～23年度は期首10月～期末9月)

■各項目は仕事量、工事内容や移動距離で変動するため取組み評価がわかりにくい

そのため実数値に加えて原単位当たりに換算し表示

特にガソリン使用量、建設現場の軽油使用量は受注量、工種、工事内容及び現場の場所による変動が大きい項目である

■他に建設発生土があります(有効利用率=90.39%)

建設発生土有効利用率を高める為、発注者や設計者の指示、意向に従いながら、各現場に於いて尽力して行きたい

■「5S活動社内外美化・無駄の排除をする」・「使用後の機械類・道具や備品類の日常点検・整備を行う」・「倉庫内の整理整頓をする」
の項目の評価率は、定期EA21会議に於いて達成率を検討しました

【運用結果】

◆目標に対し二酸化炭素排出量は実数値比較:157%(原単位比較:142%)

Co₂排出量が増した主要因は購入電力で対目標値960%、原単位では867%

内訳は建設現場等の購入電力で前年度と比較しても対実数値200%、原単位213%と増えています、合わせて目標値の見直しも必要で
令和2年度迄は本社事務所分のみ計上していた購入電力を令和3年度から「資材置場及び建設現場の購入電力」も加える事にしました
本年度もその分が増えます、今年はまだ3年目なのでこの先数年間の実績を踏まえて電力の基準年数値の見直しをしたいと思います
建設現場の購入電力が増えた主な要因は複数の下水道工事と二級河川の災害復旧工事(護岸工)です

下水道工事には「ウエルポイント工法」が必要、合わせて河川の災害復旧工事の現場でも「8インチポンプ3台」で排水施工を
200Vの電圧で24時間フル稼働で施工期間地下水を吸上げ、又二級河川の水を排水し続ける必要があり使用電力量も増加しました
いづれの現場付近も近隣に住宅が多く、ガソリンを使用した発電機では当然騒音苦情が発生する為、電力対応となりました

又、夏季は現場事務所内も猛酷暑が続く中、熱中症対策でエアコン使用は必要な環境でした(R5/7/4静岡市/全国最高気温39.3度を記録)
今夏も熱中症対策の一環として空調服を始め熱中症計を腕に付け現場事務所内には簡易冷蔵庫に

冷えたペットボトルを常設し小まめに休憩を取る等、環境にも優しく従業員や作業員の健康管理にも配慮した対策を講じてきました

◆ガソリン使用量は対目標実数値68%、原単位は61%、対前年度実数値91%、原単位は97%でした

過積載防止としてトラック荷台の計測や荷重の判定を行い環境への配慮や燃費効率(ガソリン使用量)に尽力しました

◆建設現場の軽油使用量も対目標値148%、原単位では133%オーバーとなりました

前年度と比較しても対実数値212%、原単位226%と増えています

◆各現場(元請工事)とも近隣への環境対策として定期的(又は状況判断)に散水車にて散水を行い粉じん対策を行いました

◆産業廃棄物再資源化率は仕分け出来る物は手間暇はかかるが適切に仕分けする様に尽力すれば処分料金の節約にも繋がります

◆グリーン購入率(主に事務用品)R5年度は39.4%～今後グリーン商品購入70%台を目標に努力したいと思います



【評価レベル】 対目標割合 → (令和5年度実数値÷令和5年度目標数値)

- ◎ 印 → 49%~1% 目標より非常に低く抑えられている。取組みが非常に評価できる
- 印 → 99%~50% 目標より低く抑えられている。取組みが評価できる
- ▲ 印 → 101%~110% 目標をオーバーした。PDCAサイクルを見直し努力が必要
- × 印 → 111%~120% 目標をかなりオーバーした。PDCAサイクルを見直し更に努力が必要
- ×× 印 → 120%~以上 目標を非常にオーバーした。PDCAサイクルを見直し積極的な努力が必要

【産業廃棄物排出量合計(再資源化量)及びその他該当項目評価レベル】

- ◎ 印 → 150%以上 取組みが非常に評価できる
- 印 → 100%~149% 取組みが評価できる
- ▲ 印 → 99%~50% 目標に届かなかった。原因を調査し改善努力が必要
- × 印 → 49%以下 目標に遥かに届かなかった。PDCAサイクルを見直し積極的な努力が必要

【水使用量、灯油、LPガス・グリーン調達率及びその他該当項目評価レベル】

- ◎ 印 → 非常に配慮できた ○ → 配慮できた ▲ → あまり配慮出来なかった × → 全く配慮出来なかった

【DX/デジタルトランスフォーメーションの推進】

◆ 弊社の働き方改革(3K)・業務効率化(デジタル技術導入)・人手不足解消(建設労働者不足/高齢化)の一つとして

今期より「サイテック3D」を導入しました、国土交通省の推進でもある業務の効率化、高度化への取組です

工事の計画、調査、設計、施工、管理に於いて正確な情報を共有する事が出来る事~それが経費節減、環境への取組へと繋がる事になると考え導入しました、実際の現場で使用してみると予想以上に満足でき、特にそのデータの正確さに導入の価値を感じています

◆ 導入事例(令和5年度(一)菊川榛原線道路改築工事(道路改良工))

工事概要/見通しの悪いカーブ付近(現状歩道無し)の道路を拡幅し道路と歩道を分け防災、安全を推進する為の工事

担当現場監督が現場の諸問題に色々と苦心する中、会社に提案し「サイテック3D」の導入が決定した

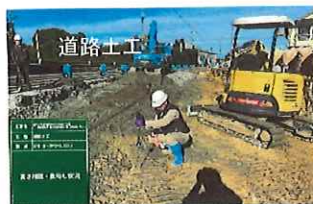
準備工数、大幅な人件費、余分な資機材(丁張が不要/等)の削減等にかかなりの成果が上がったと感じています

初めての使用なので当初は気持的に過去の経験から抜け出せずどうしても計測後のデータの正確性に一抹の不安が生じていました

サイテック3Dの出した数値データを再確認の意味で従来のアナログ方法(測量機)で再度計測してみた所、そのデータ誤差約1ミリの

正確さに驚きと共にサイテック3Dに信用がおける確信を得る事が出来ました~今後も各現場で積極的に導入して行きたいです

その他この現場は準備工時より既設電柱の移設許可に手間取り想像を超える時間を要した(約3か月)その着手の遅れが全体の工程に影響を与えたが担当監督がサイテック3Dを導入した効果やコツコツとした工期短縮の努力で工期の延長も最短で無事引き渡しが出来た従来のやり方だと道路のカーブ(上り下り3次元高低差あり)の測量、丁張や施工にはかなり手間取るのだが今回はその手間も解消出来材料削減(丁張無し)、従来の測量業務の削減、従来よりも掘削の深さ削減(深掘無しで余分な土の削減)、人件費削減~等素晴らしいメリットがありました~発注者(島田土木事務所)へも内容を説明、提案してご存じ無い方もいらしたので周知を促しました



【現場を支える頼もしい監督/各現場の環境配慮・工夫事例】

 Y監督	・現場でのコンクリート2次製品の管理・保管の徹底(製品汚れ損傷等、製品入替や補修等の手戻りが発生しない様に製品メーカーと確認打合わせを行う) ・護岸工事/近隣に養鰻場もある為、特に河川の水質(品質)変化に注意をしました(水質検査(PH値)を3か所(現場内、水替え河川放流場所、施工箇所より300m下流)で測定を行い施工内容によりPH値の変化を確認しながら合わせて塩分濃度数値も数か所で計測し近隣環境や河川に影響がない事を確認しながら施工をした) ・近隣住民出入りの隣接道路を工事車両も使用する為、定期的な散水車で散水を行い粉じん対策を行い、清掃活動(草刈り/ゴミ/空き缶拾い)をし現場周辺の安全、環境面に配慮しました	
 K監督	・道路改良工事/安全施設はあるがソーラーによる保安施設(特に夜間)を使用して周辺環境に配慮した(電気式、燃料式の保安施設は中止＝未使用) ・現場を3D化し(サイテック3D)測量機器による管理にした(丁張材料は不使用＝環境への配慮になった) ・現場がコーナーになって見通しが悪い事もあり交通誘導員を適切な場所に配置する事により特に朝晩の交通量の多いラッシュ時間帯には渋滞解消(Co2削減)に効果があったと思います	
 H監督	・水道工事/老朽化した上水道配水管の取換工事 ・周辺は家屋が密集しているので特に車両の低速走行の徹底をした(家屋の壁、洗濯物を汚さない様に注意すると共に、その粉じん対策に重点を置いた(定期的な散水車の使用)) ・排ガス規制対策型重機を利用する際には空ぶかしはしない(不要な時はエンジnstoppの指示を特に徹底した) ・舗装工事が1400㎡あり、その路盤、合材は全て再生材を利用した	
 M監督	・水道工事/老朽化した上水道配水管の取換工事 ・当初は全面通行止めの予定であったが発注者(吉田町役場)に協議を求め管路配管を変更する事で地域住民も迂回するの必要がなくなり近隣住民からも感謝とお礼の言葉を言って頂きました(道路幅員8mに対して当初計画では管路が道路の半分以上かかってしまうため全面通行止めを余儀なくされたが車両通行幅を3m確保する為に管路配管を再度検討し発注者と協議～管路配管の変更提案により全面通行止めを中止出来た)	
 N監督	・公共下水道工事/現場内に産廃ボックスを置かず、その都度発生したゴミ等は分別して処分した(ゴミが発生した時点で分別処分) ・ウエルポンプ稼働時に地下水の汲み上げによる近隣の井戸が枯れる可能性がある事が課題点として発生した(地下水位が高くそのままでは施工不可の為ウエルポンプにより地下水を汲み上げるのだが井戸の汲み上げ高さにより井戸が枯れる可能性が不安材料としてある)～発注者(吉田町役場)と協議(提案)をしウエルポンプ稼働後数日経過後の様子を見る事となり、役場担当者の立ち合いの元、水位確認を行い水位低下は無く井戸水を使用する事が出来、問題はクリア出来た(環境対策となった)	
 S監督	・下水道整備(新設工事)/この現場は水道管破損(既設の水道管のジョイント部分が抜けた事故)が発生した(状況は工事着手前から老朽化した既設水道管から既に水が漏れ出していた既設水道管の方が今回布設する下水道管より上に有り設計図面の場所に無かった事もあり想定外の不可抗力で老朽化した水道管が抜けてしまった(下水道管掘削時、周りの土が落ちて接続部分が抜けた状況)) ・再発防止協議会を開き反省と共に今後に繋げた(発注者(役所)＋元請＋下請会社) ・品質管理/材料搬入時の保管方法を工夫し品質確保に努めた(直射日光による管材料の反りの防止) ・現場発生土が良質だったので発注者に提案～なるべく現場で流用し残土を減らした	

【PDCA検証/再発防止協議会/公共下水道工事・水道管破損/想定とその対応策】

令和6年2月1日(木) am9:00~10:00

①想定される緊急事態と環境経営計画(Plan=計画)

- ・下水道工事中の既設水道管破損事故発生(想定)
- ・水道管破損事故の事前準備及び事故後の対応(対応策)
- ・再発防止協議会の開催(発注者/協力会社)(対応策)

②水道管破損事故の対応/訓練(Do=実践)

- ・公共下水道・住吉汚水幹線工事の事故発生直後の為、たむら建設(株)会議室に於いて2022(令和4)年/5/14(土)に実施した「環境上の緊急事態への準備及び対応」
- ・令和3年度榛南水道送水管布設替工事に於いて工事中に水道管を破損してしまった事を想定した実地訓練を今回机上で再検証を行い実践とした



③再発防止協議会の開催/評価と今後の取組み(Check=確認/Act=見直し)

- ・再発防止協議会:令和6年2月1日(木) am9:00~10:00
- ・たむら建設(株)会議室にて(たむら建設(株)+協力会社)~発注者(吉田町役場)へ報告



〔再発防止協議会/抜粋記載〕

現場状況の確認:事故発生を時系列に表示(客観的に状況把握/何時何分に発生した等)

原因:現場地質が砂礫度→掘削時、パネル引き抜時に見えない地盤沈下が発生

地下水低下工は施工~多量の湧水~施工面は未乾燥状態~突然地盤沈下発生

対策:反対側に地下水低下工を追加施工~施工面が乾燥状態になる事を期待する

土留めの早め施工、水道管の位置の再確認、水道の切回し、前回の施工業者への確認

評価/指示:今回の既設水道管破損事故は経験豊富な施工会社と協力しながら施工したにも関わらず発生をした、施工中の多量の湧水の原因をその時点で検証していれば防げていた可能性もゼロではない、従って今後は施工中の小さな異変、異常に対してより慎重な対応が望まれる

結果として今回の事があったお陰で地中の既設のかなり古い水道管から漏水が発生していた事が解り、逆にこのまま解らずに後日大事になるのを防げたとも考えられる、又続きを施工する工事業者に対し役に立つアドバイスが出来ると言える
今回の経験を活かし今後につなげて行こうと前向きに考えている

【令和5年度/地域貢献活動・講習会等/抜粋】

◆地域貢献活動 「しずおかアダプトロードプログラム」への取り組み

県が管理する道路を含む一定の区間に於いて、住民や道路利用者が道路の美化団体として清掃、除草等の活動を通じて地域に対する愛着や誇りを育み、住民と道路管理者との協働による豊かで快適な道路空間を創造する事を目的とした活動

・主要地方道 焼津榛原線 榛原郡吉田町地内（写真参照）

◆吉田町災害復旧支援会の取り組み(吉田町で建設関連を生業としている19社の組織)

・5/22 吉田町「令和5年度河川敷における許可工作物の搬出訓練」に参加

・5/31 令和5年度 第4号ポンプ場電気設備修繕

・9/3 吉田町総合防災訓練に参加

・9/6 島田土木事務所と「災害応急対策協力者との出動要請応諾訓練」を実施

・9/8 御前崎港管理事務所と「災害応急対策協力者との出動要請応諾訓練」を実施

・令和5年度の災害復旧関連活動はありません



【令和6年度 オンライン研修会参加】

◆主催/静岡県 静岡県SDGs×ESGウェビナー(2024/7/10(水)13:30-15:30)

◆主催/静岡県くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課長

令和6年度産業廃棄物排出事業者を対象とした 静岡県産業廃棄物適正処理推進研修会
(2024/8/9(金)14:00-16:40)

◆主催/富士山静岡空港(株) 災害発生時における島田建設業協会様の

静岡空港での協力体制の検討及び施設見学会(2024/9/18(水)13:30-16:30)

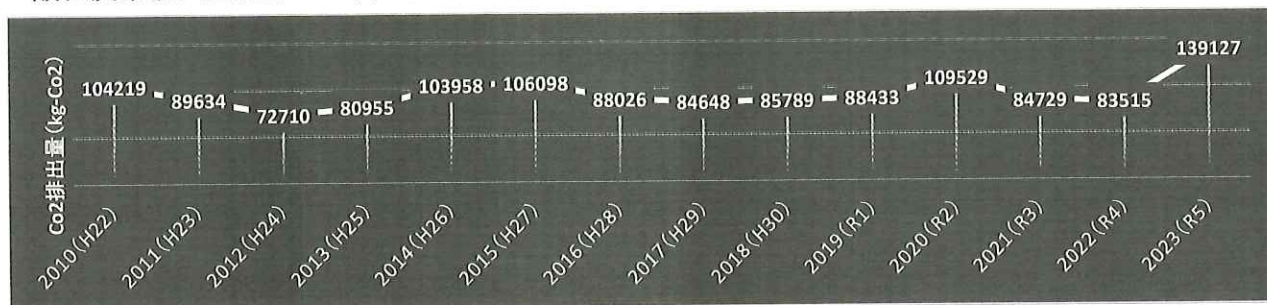


【中期5力年環境経営目標】

二酸化炭素排出量(kg-CO2)

中期5力年環境経営目標		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	88186 865	2.5%削減
2025(令和7年度)	87734 860	3.0%削減
2026(令和8年度)	87281 856	3.5%削減
2027(令和9年度)	86829 851	4.0%削減
2028(令和10年度)	86377 847	4.5%削減
基準年数値/H22～R1 10年間平均値 上段/実数値・下段/原単位	90447 887	

二酸化炭素排出量推移・14年間(実数値)



電力使用量(kwh)

中期5力年環境経営目標		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	10350 101	2.5%削減
2025(令和7年度)	10297 101	3.0%削減
2026(令和8年度)	10243 100	3.5%削減
2027(令和9年度)	10190 100	4%削減
2028(令和10年度)	10137 99.3	4.5%削減
基準年数値/H22～R1 10年間平均値(kwh) 上段/実数値・下段/原単位	10615 104	

電力使用量推移(kwh)・14年間(実数値)



平成22年度～令和2年度迄: 本社事務所使用量のみの実数値

令和5年度は「資材置場+建設現場等」の実数値も本社事務所使用量に加算(令和3年度より加算)

EA21に取り組み始めてから6年目(2015年/H27年)8月に天井埋込型エアコン使用中止の決定

本社事務所使用量はその頃から少しずつ減り～9年目位(2018年)から安定しています

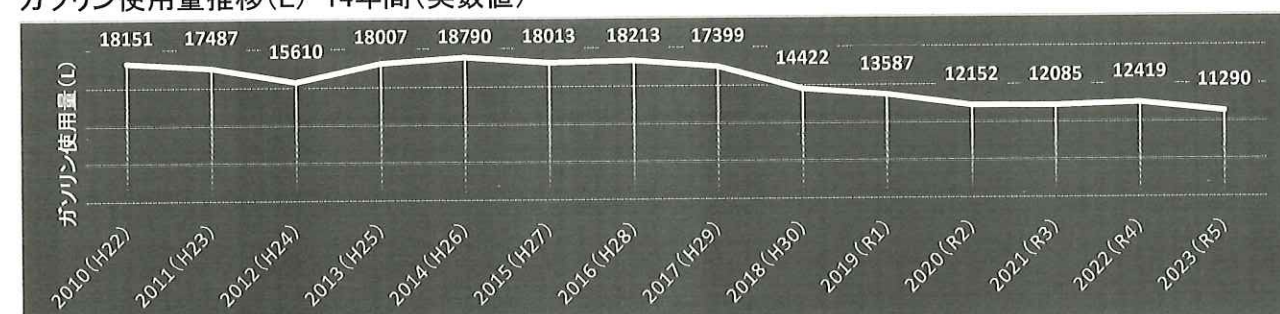
令和5年度は本社事務所使用量は例年とほぼ同じでしたが「資材置場+建設現場等」使用量を加算

したら一気に増加、比較にならない為、数年経過後基準年数値の見直しを予定しています

ガソリン使用量(L)

中期5カ年環境経営目標		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	16544 162	2.5%削減
2025(令和7年度)	16459 161	3.0%削減
2026(令和8年度)	16374 161	3.5%削減
2027(令和9年度)	16289 160	4%削減
2028(令和10年度)	16204 159	4.5%削減
基準年数値/H22～R1 10年間平均値(L) 上段/実数値・下段/原単位	16968 166.4	

ガソリン使用量推移(L)・14年間(実数値)



社用車買替時には新車の場合は勿論、中古車両の場合もよく検討して購入したい
相乗同行に努め、必要な暖機運転、無駄なエンジンの空ぶかし及びアイドリング状態
の継続等を見直し資源の節減に努める、ガソリン価格の急騰も収まらず今後も上がっ
ていく事が予想されているので燃料費の節約に尽力する



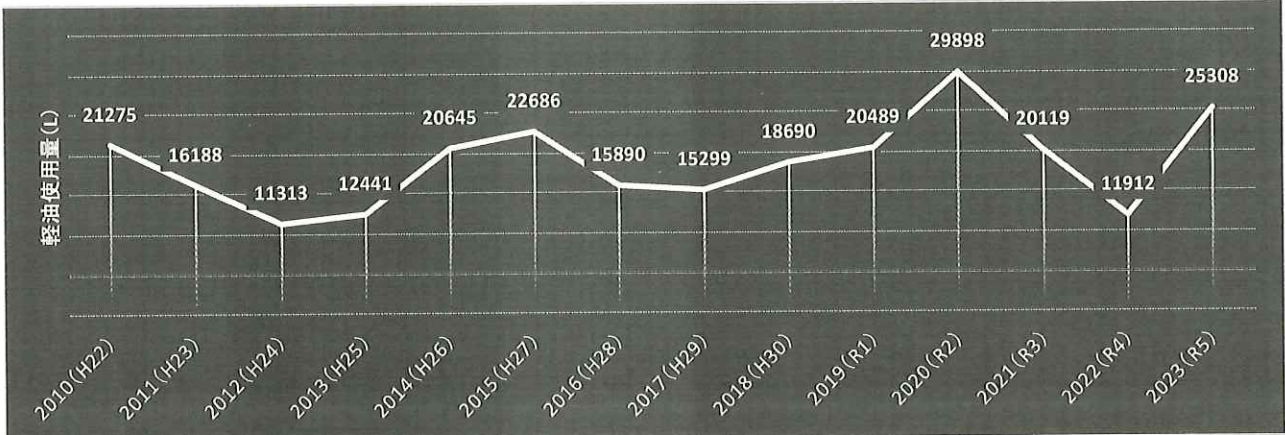
たむら建設(株)は段ボール類を
近隣の佐吉会館(自治会館)へ運
搬しリサイクルに努めています



建設現場等の軽油使用量(L)

中期5力年環境経営目標		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	17055 167	2.5%削減
2025(令和7年度)	16967 166	3.0%削減
2026(令和8年度)	16880 165	3.5%削減
2027(令和9年度)	16792 165	4%削減
2028(令和10年度)	16705 163	4.5%削減
基準年数値/H22～R1 10年間平均値(L) 上段/実数値・下段/原単位	17492 171	

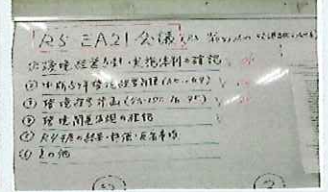
軽油使用量推移(L)・14年間(実数値)



産業廃棄物排出率合計(再資源化量)

中期5力年環境経営目標(%)		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	95	105
2025(令和7年度)		
2026(令和8年度)		
2027(令和9年度)		
2028(令和10年度)		
基準年数値/H22～R1 10年間平均値 実数値(%)	90	

たむら建設(株)(令和5年度)
現場事務所・EA21会議



水使用量及び総排水量(節水)

中期5カ年環境経営目標(m³)		
年度	目標値	基準年度比
2024(令和6年度)	改善を維持する	改善が安定して来た為 今後も維持/配慮する
2025(令和7年度)		
2026(令和8年度)		
2027(令和9年度)		
2028(令和10年度)		
基準年数値/H22～R1 10年間平均値 実数値(m³)	51.7	

水使用量及び総排水量/実数値m³(H22～R1・10年間): 平均値51.7m³

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
77	44	64	65	51	48	41	48	43	36

「水関係」の創意工夫事例 生態系へ配慮！



二級河川湯日川災害復旧工事(護岸工)

「pH値」及び「塩分濃度数値」を隣接する環境(生態系)や河川に影響がない事を十分に確認(それぞれ数か所づつ確認)し環境に配慮した施工を行った

排出ガス規制型重機で
環境に配慮した施工を行います



【令和5年度 環境経営活動計画】

※令和5年度環境経営目標達成の為、定期的(3カ月毎)に全体会議に於いて環境管理責任者がチェック

取組内容	点検方法	取組期間 (R5年6月1日～令和6年5月31日)	定期チェック (7・10・1・4/ 月)	主たる 担当部署
購入電力使用量・削減				
不必要な照明器具・空調設備 OA機器類の消灯・電源OFFをする	目視確認	←→	EA21会議で 定期チェック	総務部
昼休み、晴天時の窓際等の照明 は、業務に支障の無い範囲で消灯する	目視確認	←→	〃	総務部
PC・コピー機・プリンター等は一定時間後 省エネモードになるよう設定する	目視確認	←→	〃	総務部
計画的な工程管理による残業時間の 短縮を心がける	聞き取り	←→	〃	工事部
時間外勤務時の照明は、必要最小限 の範囲のみ点灯する	聞き取り	←→	〃	総務部
退社時、支障の無い限り電気製品の プラグをコンセントから抜く	目視確認	←→	〃	全社員
空調設備の使用は、冷房時28° C 暖房時19° Cを目安に適切な 温度管理を徹底する	目視確認	←→	〃	総務部
電化製品を購入する場合は省エネ タイプの物を購入する	聞き取り	←→	〃	総務部
ガソリン・軽油使用量・削減				
タイヤ空気圧を適正にし、急発進、空ぶ かし、過積載をしない	聞き取り	←→	〃	全社員
必要以外のエアコン使用を抑える 経済運行速度走行をする エコドライブに努める	聞き取り	←→	〃	全社員
無駄なアイドリングをやめる	聞き取り	←→	〃	工事部
車両、機械等は低燃費タイプを使用する	聞き取り	←→	〃	工事部
グリーン購入・削減				
間伐材マーク製品使用(木製パレト等) 型枠・再生骨材の利用促進	聞き取り	←→	〃	工事部
総排水量・削減				
節水対策を行う	聞き取り	←→	〃	全社員
環境配慮(工法・作業)				
環境負荷の少ない製品を優先的に 購入、使用する	聞き取り	←→	〃	全社員
建設副産物のリサイクルの徹底	聞き取り	←→	〃	工事部
悪臭、防音、振動の防止	聞き取り	←→	〃	工事部



【環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容】

取組内容(R5年6月～令和6年5月)	評 価		次年度取組内容
二酸化炭素排出量の削減	×	CO2目標に対して実数値で157%、 原単位で142%、現場の電力使用量と 軽油の使用量の増加が主要因です 電力も軽油も必要があつての使用の 中で削減に向け努力していきたい	R6年度は現場の電力使用量の削減 に努力する ガソリンと軽油の燃料代金の高騰も 今後も続くと思われるので無駄のない 効率的な使用を心がける
購入電力使用量・削減			
不要な照明器具・空調設備 OA機器類の消灯・電源OFFをする	○	事務所天井の窓側(南側)蛍光灯10本 は節電の為、ほぼ消灯状態であり トイレ内照明もセンサー付きで節電中 階段照明も年中節電消灯中 エアコン1台/3台中も節電でほぼ未使用	日々節電に心がけ1時間以内の 外出の時はエアコンは付けておく 夏季、冬季のエアコン温度設定を守る 事務所南側天井蛍光灯の節電は継続 する
昼休み、晴天時の窓際等の照明 は、業務に支障の無い範囲で消灯する	○	全社員徹底出来た	資材置場の待機所、倉庫の照明は 小まめに消す
PC・コピー機・プリンター等は一定時間後 省エネモードになるよう設定する	○	全社員徹底出来た	猛暑日が続く場合は健康優先で エアコンを利用し無理に我慢しない
計画的な工程管理による残業時間の 短縮を心がける	○	残業は減っているが年度末完成引渡前 の現場帰社後の書類作成が残業になる	R6年度も残業をしない、させない様に 特に早めの段取り、翌日の準備を行う
時間外勤務時の照明は、必要最小限 の範囲のみ点灯する	○	現場終了後、事務所へ戻り書類整理 や会議は必要最小限の照明でやった	天井の蛍光灯の節電を継続する
退社時、支障の無い限り電気製品の プラグをコンセントから抜く	○	全社員徹底出来た	継続 夜間PCバックアップを取る物は 電源を切らない
空調設備の使用は、冷房時28℃ C 暖房時19℃ Cを目安に適切な 温度管理を徹底する	○	猛暑が続く中、エアコン効率を考え 節電出来る時はする 夏季(猛暑)の場合には休日には 換気扇を回し社内に熱を溜めない	特に夏の猛暑は気温に注意し 健康優先で無理せず空調を利用する 冬期は極力エアコンの使用を制限し ウォームビズで対応努力する
電化製品を購入する場合は省エネ タイプの物を購入する	○	従業員に空調服を与え夏季の熱中症 対策、節電対策の取り組みとした	継続して空調服を有効利用する
ガソリン・軽油使用料・削減			
タイヤ空気圧を適正にし、急発進、空ぶ かし、過積載をしない	○	始業前点検の実施 作業終了後のチェック	ゆっくり発信する 左右の安全を確かめる余裕を持つ
必要以外のエアコン使用を抑える 経済運行速度走行をする エコドライブに努める	○	現場へは可能なら相乗で行く 夏季(猛暑)の場合には エアコンを効率よく使用して 体調管理を優先した行動に心がける	同じ現場へ行くときは相乗りをする エコドライブを心がけ 効率の良い運転ルートを考える
無駄なアイドリングをやめる	○	無駄なアイドリングは減ってきている	車内に省エネステッカーを貼り、省エネ を意識した取り組みを継続する
車両、機械等は低燃費タイプを使用する	○	全社員徹底出来た	全ての現場で低燃費重機を使用
グリーン購入・削減			
間伐材マーク製品使用(木製パリケード 等)型枠・再生骨材の利用促進	○	事務用品購入は念入りに比較検討する 木製パリケードは間伐材マーク 製品を購入・再利用している	事務用品購入前は良く比較検討する 間伐材(木製パリケード)・型枠・2次製品 の再利用に努める
総排水量・削減			
節水対策を行う	○	蛇口・ホース等の損傷点検	現場で漏水パトロール(節水対策)をする
環境配慮(工法・作業)			
環境負荷の少ない製品を優先的に 購入、使用する	▲	事務用品を購入する時はグリーン商品 かをチェックし比較検討する	今後も継続する
建設副産物のリサイクルの徹底	○	全社員出来た	継続
悪臭、防音、振動の防止	○	全社員出来た	継続

○ 運用が出来ている ▲ 努力が必要 × 次年度は改善を要する必須事項

【環境関連法規等取りまとめ表】

適用される主な環境関連法規

適用対象	法規・条例・規則	適用内容・規制基準値	当社の対応等	遵守評価
建設業 建築 土木工事 施工業	リサイクル法	指定副産物のリサイクル化、実績 記録の作成・報告・保管義務	アスコン塊・コン塊・木材・汚泥・ 発生土等再利用	○
	建設リサイクル法	廃棄物をその種類に応じた施設へ 適切な搬出	契約時提出	○
	廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	廃棄物収集・運搬及び処分 業者との委託契約	契約(書)の締結	○
		収集運搬・処分業許可証確認	県知事の(最新)許可証	○
		マニフェストの交付義務、記載 義務及び虚偽記載の禁止	マニフェストの適正な作成	○
		マニフェストの保管・管理	B2票・D票・E票保管・5年間	○
		マニフェストの期間内返却確認	90日以内又は180日以内・返却確認	○
		保管基準の遵守、削減活動の 実施、投棄禁止	不法投棄を行わない	○
		廃棄物の悪臭・飛散防止	仮置場や車両荷台を養生シートで覆う等	○
		産業廃棄物管理票交付等状況 報告書の提出状況確認	前年度分を6月末までに静岡県知事へ提出 法令遵守、体制整備 確認記録保管	
	静岡県産業廃棄物の適正 な処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の設置 処理委託先の実地確認と記録		○
	静岡県生活環境の保全等に関する条例	騒音に係る特定建設作業の実施の届出 改善勧告及び改善命令	鉄骨及び橋梁の組み立て作業 規制基準の遵守	○
		振動に係る特定建設作業の実施の届出 改善勧告及び改善命令	杭打機(振動規制法の特定建設作業に準ずる) 規制基準の遵守	
	騒音規制法	杭打機・打機・打機・空気圧縮機 等使用する作業、特定建設作業・適用 指定地域、環境大臣指定機種(国交省 低騒音型建設機械指定制度機種除く)	知事へ7日前までに届け出 作業敷地境界にて80デシベル以下	○
	振動規制法	杭打機・杭抜機・ブレイカー・舗装版 破砕機を使用する作業 特定建設作業・適用指定地域	知事へ7日前までに届け出 作業敷地境界にて75デシベル以下	○
	悪臭防止法	悪臭発生の可能性のある作業 (塗装工事・アスファルト防水工事・ 汚泥乾燥等) 都道府県知事が定めた規制地域	特定悪臭物質又は臭気指数の規制 基準遵守、ゴム等悪臭発生原因物を 焼却しない。悪臭発生の恐れのある 汚泥は現場処理しない、等 事故発生時の市町村長への報告義務	○
	オフロード法 (特定特殊自動車排出ガス の規制等に関する法律)	(特定特殊自動車) ガソリン・LPGを燃料とする自動車 軽油を燃料とする自動車	基準適合表示(或いは少数特例表示)が付された 特定特殊自動車の使用が義務づけられる 規制対象自動車:公道を走行しない特殊自動車 バックホウ・ブルドーザ・フォークリフト・等	○
事業者 全般	自動車リサイクル法	引取業者への引渡し	リサイクル料金支払	○
	消防法(危険物の取扱い)	火災の予防	危険物施設・物品の取扱いと火災予防対応	○
	建設業の環境自主行動計画(第4版)	環境経営、環境保全	環境リスクの低減、地球温暖化対策、建設副産物 対策、有害物質・化学物質対策、生物多様性の 保全及び持続可能な利用	○
	家電リサイクル法	指定家電の収集	テレビ・冷蔵庫 他	○
	資源有効利用促進法	指定再資源化製品リサイクル(適正廃棄)	パソコン・小型二次電池等の廃棄時	○
	下水道法		廃油有害物質排出禁止	○
	フロン排出抑制法	廃棄時の回収・破壊 省フロンの使用 フロン使用中の管理 機器廃棄の際の取組(改正強化事項) 建物解体時の機器廃棄の際の取組(〃) 機器が引き取られる際の取組(〃) その他・継続的な普及啓発活動の 推進の為都道府県に於ける関係者に よる協議会規定の導入等(〃)	適切な場所への設置等 機器の「簡易点検」(四半期に1回以上) 及び点検の記録・保管 漏えい防止措置 修理しないままの充填の原則禁止	○

水銀含有廃棄物に関しては適切に対処します

環境関連法規等への違反はありません。関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

遵守状況確認日 令和6年10月1日 確認者: 田村安孝

【代表者による全体の評価と見直し・指示】

たむら建設(株)				
「代表者による全体の評価と見直し」の結果			記入者氏名:田村安孝	
			実 施 日 :令和6年10月15日	
見直し 関連情報	項 目		確認(必要に応じ評価・コメントを記載)	
	1	EA21文書	確認済	
	2	環境経営目標及び目標達成状況	確認済	
	3	環境経営計画及び取組実施状況	確認済	
	4	環境関連法要求一覧及び及び遵守状況	確認済	
	5	外部コミュニケーション対応記録	確認済	
	6	問題点の是正・予防処置の実施状況	関係当局よりの違反等の指摘は 過去3年間ありません	
	7	取引先、業界、関連行政機関 その他の外部動向	利害関係者にもEA21への取組みに 協力を呼び掛けている	
	8	その他		
代表者による 全体の評価と見直し の指示	全体評価・コメント		井の中の蛙大海を知らず、されど空の蒼さを 知る～私も長くその中に居りますので色々 見え、又感じる事もあります 現場監督を中心に協力会社の皆様も前向きに 取り組んでいると一定の評価をしています 年々公共工事も厳しさが増す中、SDGsのゴール(目標)に向かってエコアクション21で脱炭素 経営に継続して取組んで参ります	
	見直し項目		備 考	
	1	環境経営方針	無し	環境経営方針に沿って引き続き努力します
	2	環境経営目標	無し	現場を中心に前向きに取り組めます
	3	環境経営計画 と取組項目	無し	電力・軽油の削減に努力します
	4	環境に関する組織	無し	少数精鋭で取組みに努力します
	5	その他の システム要素	無し	情勢に合わせ検討し進めます
	6	その他 (外部への対応等)	無し	協力会社と二人三脚で対応します

令和6年10月15日 代表取締役 田村安孝